

2 県の国際交流事業

(1) 香港との交流

中国華南地域の中心であり、中国本土に向けた交流・交易の拠点的功能を担っている香港との間で、経済、観光、芸術・文化、青少年等の各般にわたる交流について協議するため、昭和 55（1980）年に「第1回鹿児島・香港交流会議」を開催して以来、2年ごとに相互の地で交互に会議を開催している。

この会議を柱に、経済、観光、芸術・文化、青少年等、幅広い分野における交流が展開されてきている。

また、昭和60（1985）年7月から香港に県の駐在員を設置しているほか、平成11（1999）年1月11日には、県人会関係者、交流会議関係者、日本語研修・からいも交流参加者等で構成される「香港かごしまクラブ」が香港で設立され、また平成14（2002）年9月7日には、鹿児島に「かごしま香港クラブ」が設立された。

令和4年度には、「第23回鹿児島・香港交流会議」を鹿児島で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、書面協議となった。

令和6年度は、「第24回鹿児島・香港交流会議」を香港で開催し、経済交流、観光交流、人的交流などの各分野における今後の具体的な交流プログラム7項目について双方が合意した。



左：東アジア内における香港の位置 右：香港の拡大地図

① 香港の概要

面積：1,110km²

人口：740万人（2022年）

地勢・気候：香港島と、中国大陸につながる九龍半島および周辺の大小235の島から成る。気候は季節風のため変化に富み、4月中旬から9月は南風が吹き高温多湿。10月～3月には北風が吹く。

主要産業：金融サービス業、不動産業、観光業、貿易業

（出典：外務省ホームページ「国・地域」）

② 香港との交流

ア 鹿児島・香港交流会議（昭和55年度～）

以下の交流プログラムに基づき、交流を実施

- ・ 芸術文化交流
- ・ 霧島国際音楽祭への受講生受入れ
- ・ 青少年交流
- ・ 民間レベルの交流促進
- ・ 経済交流
- ・ 観光PR等

イ 経済交流

(ア) 商談会の開催（昭和57～59年度、昭和63～平成2年度、平成8年度、平成17～18年度、平成20年度～）

※ 令和2～4年度は、オンラインで実施

(イ) 鹿児島フェアの開催（平成19年度～）

(ウ) フードエキスポへの出展（平成24年度～令和元年度）

(エ) レストランフェアの開催（平成21年度～）

(オ) シェフ・バイヤー等の招へい（平成21年度～令和元年度、令和4年度～）

ウ 観光交流

(ア) 航空便の就航

鹿児島―香港線（平成20～21年度、平成26年度～令和2年3月、令和5年6月～）

(イ) 海外旅行者等招待事業（昭和57年度、昭和62～平成5年度、平成7～13年度、平成15～17年度、平成19年度～）

(ウ) 観光ミッションの派遣（平成10年度、平成12年度～）

(エ) EGLフライケーションキャンペーンへの協賛（令和2年度）

(オ) 香港メディア関係者の招請及び鹿児島県のPR（令和3年度～）

エ 芸術・文化交流

(ア) 鹿児島・香港芸術文化交流事業（平成元年度～平成30年度、令和6年度～）

(イ) 霧島国際音楽祭への講習生受入（平成4年度～令和元年度、令和4年度～）

オ 人材の交流

- (ア) 鹿児島県青少年海外ふれあい事業（昭和37年度～令和元年度、令和5年度～）
本県青少年の派遣及び香港青少年の受入
- (イ) ジェトロ香港センターへの鹿児島県職員の派遣（昭和60年7月～）
- (ウ) かがしま青少年海外研修事業（平成29年度～）
※ 令和3年度及び4年度は、オンライン研修を実施

カ 香港かがしまクラブ（アジアかがしまクラブ）（平成10年度設立）
会員数：400名

キ 市町村の交流

- (ア) 南大隅町（旧根占町）のドラゴンボート大会に香港チーム参加
（平成元年度～令和元年度）

ク その他の交流

- (ア) 香港の大学生が「からいも交流・夏」に参加（平成3年度～）
- (イ) 日本語・日本文化研修
香港大学、香港中文大学生がアジア・太平洋農村研修センターで研修
（平成7年度～令和元年度、令和5年度～）
香港ウーロンゴン大学学生の研修（平成19年度～令和元年度、令和5年度～）
※平成30年に香港城市大学専上学院から、香港ウーロンゴン大学に名称変更
- (ウ) かがしま香港クラブ設立（平成14年度設立）
- (エ) アジア青少年芸術祭（鹿児島市主催）への参加
（平成18年度～令和2年度、令和5年度～）
- (オ) 鹿児島大学学生の香港企業におけるインターンシップ（平成27年度～令和元年度）
- (カ) 鹿児島国際大学学生の香港企業におけるインターンシップ（平成27年度～令和元年度）

(2) シンガポールとの交流

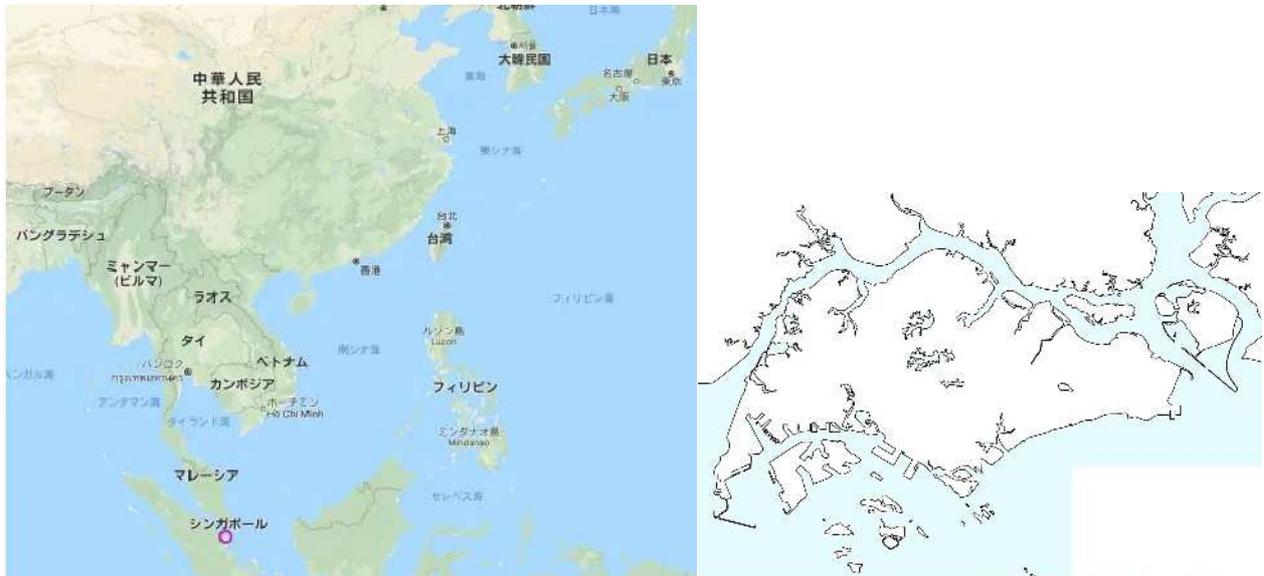
アジアの貿易、金融の中心地として目覚ましい発展をとげているシンガポールとの間で、経済、観光、文化・スポーツ等各分野で本県との交流促進を図るため、昭和57（1982）年に「第1回鹿児島・シンガポール交流会議」を開催して以来、2年ごとに相互の地で交互に交流会議を開催している。

この会議を柱に、経済、観光、芸術・文化、青少年等、幅広い分野における交流が展開されてきている。

また、平成11（1999）年1月13日には、人的ネットワークの形成を促進するために、リム・チン・ベン元駐日大使を名誉顧問とし、交流会議関係者、県人会関係者、留学生・技術研修生OB等で構成する「かごしまクラブシンガポール」が設立された。

令和5（2023）年11月22日には、「第21回鹿児島・シンガポール交流会議」が鹿児島において開催され、併せてシンガポール観光セミナー・意見交換会及びシンガポール経済セミナー等の関連事業を実施した。会議においては、経済、観光、芸術・文化、青少年交流等の各分野での交流促進について意見交換が行われるとともに、今後の交流プログラム8項目について双方が合意した。

令和7年度は、「第22回鹿児島・シンガポール交流会議」をシンガポールで開催する。



左：アジア内におけるシンガポールの位置 右：シンガポールの拡大地図

① シンガポールの概要

面積：720km²

人口：604万人（2024年）※うちシンガポール人・永住者は約418万人

地勢・気候：マレー半島の突端ジョホール水道を隔てたシンガポール島（東西42km，南北23km）と付属諸島から成る都市国家。海洋性気候で気温は年間ほぼ一定し，日中平均気温は30.6℃，11～1月は雨が多い。

主要産業：製造業，ビジネスサービス，運輸・通信業，金融サービス業

（出典：外務省ホームページ「国・地域」）

② シンガポールとの交流

ア 鹿児島・シンガポール交流会議（昭和57年度～）

イ 経済交流

- (ア) 商談会の開催（昭和60～62年度，平成19，23，27～29年度）
- (イ) 百貨店とスーパーで鹿児島フェアを開催（平成22～令和元年度，令和3年度～）
- (ウ) シンガポールのレストランで鹿児島フェアを開催（平成20～27年度，平成29～令和元年度，令和3年度～）

ウ 観光交流

- (ア) 国際旅行見本市に参加（平成5，7年度）
- (イ) マスコミの相互派遣及び受入（平成3年度～）
- (ウ) フラワーパークかごしまとシンガポール植物園の交流（平成9～令和元年度）
- (エ) オンラインで観光プロモーション活動の実施（令和2，3年度）

エ 芸術・文化交流

- (ア) 霧島国際音楽祭・講習会への講習生受入（昭和63～令和元年度，令和5年度～）
- (イ) チンゲイパレード（旧正月を祝うパレード）への学生派遣（令和元年度）

オ 人材の交流

- (ア) 国際交流員の配置（平成15年度～）
- (イ) （一財）自治体国際化協会シンガポール事務所への鹿児島県職員の派遣（平成2～7年度，平成10年度～）
- (ウ) 日本人学校への鹿児島県教職員派遣（昭和47年度～）
- (エ) 鹿児島県青少年海外ふれあい事業（昭和37年度～）
- (オ) シンガポール日本語スピーチコンテスト優勝者のホームステイ受入（平成16～21年度，平成28年度～平成30年度）

カ かごしまクラブ・シンガポール（アジアかごしまクラブ）（平成10年度設立） 会員数：130名

キ その他の交流

- (ア) アジア青少年芸術祭（鹿児島市主催）への参加（平成18年度～令和元年度，令和5年度～）
- (イ) 鹿児島県ASEANディレクターの設置（平成28年4月～）

(3) 韓国全北特別自治道（旧全羅北道）との交流

平成元（1989）年10月に「友好協力の推進に関する共同宣言」に調印して以来、行政間交流をはじめ、青少年や女性団体による交流、文化・スポーツ交流を中心に、活発な交流が展開されるとともに、「全羅北道かごしまクラブ」の設置を通じて人的ネットワークの形成が図られている。

平成6（1994）年5月には、「第1回鹿児島・全羅北道交流会議」を鹿児島で開催し、行政、観光、産業・経済、文化・スポーツの各分野別に協議を行った。

平成21（2009）年11月には、これまでの交流関係を基盤として、今後の両県道の交流について、実務レベルで協議する「鹿児島県・全羅北道交流協議会」を鹿児島において開催し、芸術文化交流や青少年交流等について協議した。以降、交流協議会は2年ごとに交互の地で開催し、令和元（2019）年10月31日には、「第6回鹿児島県・全羅北道交流協議会」を全羅北道で開催するとともに、共同宣言調印30周年を迎えた。

令和7（2025）年10月27日には、「第9回鹿児島県・全北特別自治道交流協議会」を鹿児島で開催した。



① 全北特別自治道の概要

面積：8,073km²

人口：約174万人（2024年現在）

道都：全州市

地勢・気候：韓国の南西部に位置する全北特別自治道は、河川と肥えた平野地帯が発達し、東は慶尚南道、南は全羅南道、北は忠清南道、西は黄海に面している。ソウルから道都・全州市まで特急列車で3時間半、高速バスで3時間ほどである。西海岸部のセマングム干拓総合開発により、朝鮮半島の対外貿易の中心地となるべく、事業を推進している。

歴史・風土：かつて、後期百済王朝がこの地方に都を置き、また、朝鮮王朝の発祥地でもあるため、歴史的遺産が多い地域である。この地方は、伝統的韓国料理の里としても有名である。

行政地区：6市8郡

特産品：高敞の陶磁器、長水の石製品、南原の木器、全州の韓紙、竹扇、淳昌のコチュジャン（辛子味噌）は典型的な地元の特産品である。

（出典：全北特別自治道ホームページ）

その他：「全羅北道」から「全北特別自治道」への改編について

（1）変更日：2024年1月18日

※2023年1月に「全北特別自治道の設置に関する特別法」が成立

（2）特別自治道について

- ・一般的な行政区域である「道」よりも高い自治権が与えられた地域として地域の条件や特性に合った特例が与えられ、自主的な政策決定と責任下で運営される特別地域
- ・特別自治道は、済州と江原道に次いで、全国で3番目

② 全北特別自治道との交流

ア 鹿兒島・全羅北道交流協議会（平成21年度～）※隔年開催

※ 令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により書面協議

イ 芸術・文化交流

（ア）鹿兒島・全羅北道芸術文化交流（平成6年度～）※隔年開催

※ 令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により中止

（イ）霧島国際音楽祭講習生受入（平成7年度～）

※ 令和2～4年度は、新型コロナウイルスの影響により中止

ウ 人材の交流

（ア）国際交流員の配置（平成6年度～）

（イ）日本語・日本文化研修生のアジア・太平洋農村研修センターでの受入（平成7年度～）

※ 令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルスの影響により中止

エ 全羅北道かごしまクラブ（平成10年度設立）

会員数：224名

オ 市町村の交流

- (ア) 鹿児島市
かごしまアジア青少年芸術祭受入（平成19年度～）
- (イ) 鹿屋市（旧串良町）
3小学校と全州北一（ブクイル）初等学校との友好親善交流（平成5年度～）
- (ウ) 日置市
南原（ナムウォン）市と文化交流協約を締結（平成20年5月1日）

カ その他の交流

- (ア) アジア・太平洋農村研修センター
全北特別自治道大学生への日本語研修（平成7年度～）
※ 令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルスの影響により中止
- (イ) 鹿児島空港ビルディング(株)
全北特別自治道からの案内係員招致（平成9年度～令和5年度）
- (ウ) 公益財団法人鹿児島県国際交流協会
鹿児島・全羅北道文化探訪団による本県関係団体の派遣（平成21年度～令和元年度）
鹿児島・全北特別自治道文化交流事業による講師等の派遣・受入（令和2年度～）

③ 全北特別自治道以外の鹿児島県と韓国との交流

（一財）自治体国際化協会ソウル事務所への鹿児島県職員派遣（平成7年度～）

④ その他

ア 航空便就航の状況

- (ア) 鹿児島ーソウル線（平成2年度～）
※ 新型コロナウイルスの影響により、令和2年1月末から令和5年10月末まで運休
- (イ) 鹿児島ーテグ線（平成30、令和元年度）

イ 駐鹿児島大韓民国名誉総領事館の設置（令和3年4月開館）

場 所：沈壽官窯（日置市）

名誉総領事：第15代沈壽官

(4) 中国江蘇省との交流

地理的にも歴史的にも本県と関係が深く、将来にわたり継続的な発展が見込まれる中国との交流については、昭和60（1985）年の農業分野での技術交流を契機に、江蘇省との間で、海外技術研修員や国際交流員、各種訪問団の受入のほか、青少年の派遣等、人材交流を中心に様々な分野における交流を行ってきた。

平成9（1997）年11月に知事が江蘇省を訪問した際、同省の省長と、県・省間の今後の交流のあり方について協議し、幅広い交流を促進することを目的とした交流協議会の設置について合意したことを受け、平成10（1998）年8月に総務部長を団長とする訪問団が江蘇省を訪問し、「鹿児島県・江蘇省交流協議会協定書」を締結するとともに、「第1回鹿児島県・江蘇省交流協議会」を開催した。以降、交流協議会を毎年、相互の地で交互に開催している。

なお、平成20（2008）年は、交流協議会開始10周年という節目の年にあたることから、今後の両省県の更なる交流促進を図るため、知事及び県議会議長等が江蘇省を訪問し、江蘇省長への表敬訪問を行ったほか「鹿児島県と江蘇省の友好交流の促進に関する協議書」を締結した。

令和7（2025）年は、江蘇省との交流開始40周年という節目の年にあたることから、今後の両省県の更なる交流促進を図るため、江蘇省副省長等が本県を訪問し、交流協力会議等を開催した。



① 江蘇省の概要

面積：107,200km²

人口：8,526万人（2023年末現在）

省都：南京市

地勢・気候：中国大陸の東部沿海地区に位置し、長江の河口域にあり、北部に淮河が流れる。東は東海、西は安徽省に連なり、南は浙江省、北は山東省と境界を接する。

気候は亜熱帯から温帯に属している。平坦な地勢で平原が広く、湖や河川が交錯し、水路網が発達している。

産業構造：第1次産業 3.8%

第2次産業 43.2%

第3次産業 53.0%（2024年末現在）

（出典：江蘇省人民政府ホームページ）

② 南京市の概要

面積：6,587km²

人口：958万人（2024年現在）

気候：1月平均最低気温 3.1℃

7月平均最高気温 28.4℃

年間降水量 1,144.0mm（2024年現在）

（出典：南京市人民政府ホームページ）

③ 江蘇省との交流

ア 県の交流

（ア） 鹿児島・江蘇省交流協議会（平成10年度～）

※ 令和2～5年度は、新型コロナウイルスの影響等により書面協議
令和6年度は、江蘇省において協議を実施

（イ） 海外技術研修員の受入（平成3年度～）

※ 令和2～4年度は、新型コロナウイルスの影響等により中止

（ロ） 国際交流員の配置

江蘇省から国際交流員を招致

※ 令和2～5年度は、新型コロナウイルスの影響等により中止

（ハ） 江蘇省への専門家派遣（平成12年度～）

江蘇省が希望する分野の専門家を派遣し、省開催のセミナーで講演等を行う。

※ 令和2～4年度は、新型コロナウイルスの影響等により中止

令和5年度及び6年度は、江蘇省から派遣依頼がなく、実績なし

（ニ） 中国語の研修（平成11～16年度、平成21年度～）

南京師範大学での語学研修及び江蘇省国際交流センターでの実務研修を実施

※ 令和2～4年度は、新型コロナウイルスの影響によりオンラインで実施

イ 市町村の交流（友好交流協定等）

（ア） 薩摩川内市－常熟市（平成3（1991）年7月）

（イ） 湧水町－淮安市洪沢区（平成10（1998）年7月）

（ロ） 南さつま市－宿遷市（平成14（2002）年10月）

④ 江蘇省以外の中国との交流

ア 県の交流

（ア） 鹿児島県上海事務所（公益社団法人鹿児島県特産品協会上海駐在事務所）の開設（平成22年度）

（イ） 北京・清華大学との「鹿児島県と清華大学との包括交流に関する覚書」（以下、「MOU」という。）に基づく友好交流（平成26年度）

平成25（2013）年8月にMOUを締結し、翌年度から青少年・学術・経済などの幅広い分野で交流を推進し、人材の育成と人的ネットワークを構築。

イ 市町村の交流（友好交流協定等）

（ア） 鹿児島市－湖南省長沙市（昭和57（1982）年10月）

（イ） 薩摩川内市－上海市嘉定区馬陸鎮（平成7（1995）年8月）

（ロ） 霧島市－陝西省耀州区（平成7（1995）年10月）

- (エ) 霧島市－湖南省瀏陽市（平成19（2007）年10月）
- (オ) 南大隅町－上海市奉賢区庄行鎮（平成20（2008）年1月）

ウ 民間の交流

鹿児島県日中友好協会、鹿児島市日中友好協会、中国同人館、奄美市日中友好協会、薩摩川内市日中友好協会、鹿児島県日中友好教職員の会、その他各市町国際交流協会等の民間レベルでも青少年交流や研修視察団派遣などの友好交流、植林活動、学校建設支援などの活動を行っている。

エ 学生等の交流

(ア) 鹿児島大学

湘潭大学（湖南省湘潭市）など、18大学と交流協定を締結し、研究者交流、学生交流、資料の交換等を行っている。

(イ) 鹿児島国際大学

華東師範大学（上海市）及び大連外国語大学（遼寧省大連市）と交流協定を締結し、研究者交流、学生交流、資料の交換等を行っている。

(ウ) 鹿屋体育大学

上海体育学院（上海市）、渤海大学（遼寧省錦州市）及び天津体育学院（天津市）と交流協定を締結し、研究者交流、学生交流、資料の交換等を行っている。

(エ) 鹿児島県立短期大学

南京農業大学国際教育学院（江蘇省南京市）と平成14（2002）年8月に「学術交流に関する合意書」に調印。平成17（2005）年9月に「交換留学協定書」に調印し、研究者交流、学生交流、資料の交換等を行っている。

(オ) 志學館大学

長春師範大学（吉林省長春市）と平成21（2009）年9月に交流協定を締結し、学生交流等を行っている。

(カ) 鹿児島純心女子大学

常熟理工学院（江蘇省常熟市）と平成23（2011）年10月に交流協定を締結し、学生交流等を行っている。

(キ) 県立鹿児島東高校

天津市の匯文中学（第34中学から校名変更）と平成10（1998）年10月に姉妹校盟約を締結し、学生交流等を行っている。

オ 中国への修学旅行

令和元年度以降、実施校なし

(5) 中国・清華大学との交流

本県と清華大学は、平成23（2011）年に学生交流等を通じて交流が始まり、平成24（2012）年には同大学の謝維和副学長が本県を訪問され、双方の交流を深めるため、知事の同大学訪問を提案された。

これを受け、平成25（2013）年8月29日に、知事や県議会議長をはじめ、県内経済界や大学の代表者等が清華大学を訪問し、今後の双方の総合的かつ持続的な交流を促進するため、知事と学長の署名によりMOU（包括協定）を締結した。清華大学と海外の地方自治体によるMOU締結は、本県が初めてである。

これ以降、青少年・学術・経済などの分野において交流事業を実施し、双方の人材育成や人的ネットワークの構築を図っている。

① MOUの締結

ア 締結日

平成25（2013）年8月29日

イ 場 所

清華大学（北京市）

ウ 出席者

(7) 鹿児島県側

知事、県議会議長、鹿児島大学学長、鹿児島国際大学学長ほか11名

(1) 清華大学側

清華大学校務委員会副主任（党委員会副書記）、同大学国際部副部长、同大学社会科学学院院務委员会主任、人文学院党委員会書記ほか13名

② MOUの内容

ア 未来に向けて手を携える真の友情を構築するため、人材と情報の交流を促進する。

イ 東アジアの繁栄に寄与するため、多様な分野における交流を促進し、双方の連携強化を深める。

(7) 次代を担う若者同士の理解と友情をさらに深めるため、双方の青少年学生交流を積極的に促進する。

(1) 双方の人材育成や学術・技術交流を促進するため、あらゆる人材交流の機会の創出に努める。

(ウ) 双方の教育・産業分野における協力を促進し、幅広い人的ネットワークの構築や双方の連携強化に努める。

③ MOUの更新

MOUは、5年間の期限となっており、これまで下記のとおり2回更新を行った。なお、内容については変更なし。

・ 1期目のMOU更新：平成30（2018）年8月29日付

・ 2期目のMOU更新：令和5（2023）年12月20日付

④ 清華大学の概要

中国国務院教育部直属の国家重点大学であり、北京大学と並ぶ中国のトップレベルの大

学。32の学院（学部）と54の系（学科）を有する総合大学で、習近平国家主席、胡錦濤前国家主席など多数の政府要人を輩出している。

所在地：中国北京市

学 長：李 路明（り ろめい）

学生数：本科生 16,272人, 修士生 22,605人, 博士生 23,619人

合 計 62,496人（うち留学生2,681人）

（2024年末現在，出典：清華大学）

⑤ 清華大学との交流

ア 青少年の交流

(7) 清華大学への派遣（平成26年度～令和元年度）

大学生の語学留学及び高校生、教職員等の中国語研修

(1) 清華大学学生等の受入（平成26年度～）

県内大学生との学生交流

※ 令和2～4年度は、新型コロナウイルスの影響等により中止

イ 学術交流

(7) 文化芸術交流（平成26年度～令和元年度）

清華大学美術学院と県内で文化芸術に携わる制作者や学生等の交流（派遣，受入）

(1) 環境問題交流（平成26年度～令和元年度）

清華大学環境学院と県内環境問題の専門家等との交流（派遣，受入）

(6) 台湾・屏東県との交流

令和6（2024）年1月22日に、「鹿児島県と屏東県との交流協定」（MOU）を締結した。

MOU締結を契機に、屏東県と青少年、芸術・文化、観光、経済などの幅広い分野での交流が促進される見込みである。

これまで台北を中心とする台湾北部地域で実施してきた県産品の販路開拓や観光客誘致の取組が、今後は台湾南部地域まで広がることが期待される。

① 台湾屏東県の概要

- ・ 屏東県は台湾南端に位置する県
- ・ 三方が海に面し、漁業が盛んなほか、トロピカルフルーツやコーヒー栽培等の農業も盛ん。
- ・ 行政区としては、日本の県に相当
1市3鎮29郷で構成される。
- ・ 面積：2,775km²
- ・ 人口：789,239人（2024年12月）
- ・ 一人当たりGDP：約193万円



② 交流の経緯

令和元年12月 県議会議員が台北駐福岡経済文化弁事処から交流先として屏東県を紹介される。

令和2年2月 屏東県知事から、交流の可能性について話し合いたいとの申し出

令和2年5月 屏東県より医療物資（医療用ゴーグル等）が提供

令和3年2月 屏東県知事等とのオンライン会談

令和5年9月 屏東県知事が鹿児島県を訪問、友好交流について懇談

令和6年1月 鹿児島県知事が屏東県を訪問、MOU締結

令和6年9月 屏東県知事が鹿児島県を訪問、友好交流について懇談

令和7年1月 鹿児島県知事が屏東県を訪問、友好交流について懇談

③ MOUの内容

鹿児島県と屏東県との交流協定（令和6（2024）年1月22日）

- ・ 青少年交流、芸術文化交流等に関する協力
- ・ 観光セミナーやイベント等の観光PR事業に関する協力
- ・ 相互の地における物産展や商談会に関する協力

④ 屏東県との交流

ア 本県における屏東県PRイベント

(7) 「屏東県物産展」・「台湾文物展」開催

期 間：令和3年4月27日～5月22日

場 所：県庁舎1階エントランス及び2階県民ホール喫茶側

内 容：台湾鉄道の写真パネル、台湾風景の写真を和紙で表現した掛け軸、屏東県原住民の木彫り、海産物や果物の干し物などを展示

- (イ) 「第13回どんどん鹿児島ふるさと物産展」への出展
期 間：令和4年8月17日～28日
場 所：山形屋（鹿児島市）
内 容：屏東県を紹介するパネル展及びPRブースを設置
- (ウ) 「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」へのブース出展
期 間：令和5年10月17日、28日、30日
場 所：鴨池公園（ぐりぶー広場）
内 容：「鹿児島県の国際交流ブース」に出展し、屏東県の観光・文化等をPR
- (エ) 「アジアン・鹿児島 2024」への出展
期 間：令和6年10月20日
場 所：中央公園（鹿児島市）
内 容：「鹿児島県の国際交流ブース」に出展し、屏東県の観光・文化等をPR

イ 屏東県における本県PRイベント

- (ア) 「屏東クリスマス」への出展
期 間：令和3年度：令和3年12月24日～27日
 令和4年度：令和4年12月23日～25日
場 所：屏東市・屏東公園
内 容：県PRブースを出展し、観光パンフレット及びノベルティ等を配布
- (イ) 「屏東・日本友好感謝祭」への出展
期 間：令和3年度：令和4年2月26日～28日
 令和5年度：令和5年7月7日～9日
場 所：屏東市・勝利星村
内 容：県PRブースを出展し、観光パンフレット及びノベルティ等を配布、併せて、
開会式典において知事メッセージ動画を上映
- (ウ) 屏東熱帯農業博覧会
期 間：令和6年2月3日(土)～3月3日(日)
場 所：屏東農業物産館及びその周辺（台湾屏東県）
内 容：県PRブースでの本県の観光及び県産品の紹介
特設ステージでの島唄披露（開幕式(2/3, 4)）、県内高校生と屏東県高校生によるおはら節披露（閉幕式(3/2, 3)）
- (エ) 「世界在屏東」への出展
期 間：令和7年10月10日(金)～12日(日)
場 所：屏東市・屏東公園
内 容：県PRブースでの鹿児島焼酎・梅酒の試飲体験、知覧茶の茶道体験、本県の
観光及び特産品の紹介 等
ぐりぶーによるPR（オープニングセレモニーへの参加、フォトスポットでの
記念撮影会）

(7) ベトナムハイフォン市（旧ハイズオン省）との交流

令和元年10月に、お互いの連携・協力を促進するため、相互交流や人材育成・確保、科学技術協力、経済・観光協力に関する連携協定を締結し、人材、農業、観光等の分野での交流を行っている。

また、同協定における相互交流として、訪問団の派遣・受入を行っている。

ハイズオン省は、令和7年7月のベトナムにおける省・市再編により、ハイフォン市となった。



左：アジア内におけるベトナムの位置 右：ベトナムの拡大地図

① ハイフォン市の概要

面積：約3,195 km²

人口：約406万人

位置：首都ハノイから約100km

気候：亜熱帯モンスーン気候帯に属し、四季のほか雨季と乾季を有する。

② 連携協定締結の経緯

平成31年3月 本県に多くの人材を送り出しているベトナムとの更なる関係強化を図るため、当時の駐日ベトナム大使が連携先としてハイズオン省を推薦

平成31年4月 ハイズオン省から党書記をはじめとする訪問団が来鹿、具体的な協議を実施

令和元年10月 ベトナムビジネスサミットの場においてハイズオン省との連携協定を締結

③ ハイフォン市（旧ハイズオン省）との交流

ア 相互交流

(7) 知事とタン党書記とのオンライン会談実施（令和3年8月23日）

連携協定に基づく農業分野における科学技術協力など、具体的な交流内容について、意見交換を実施

(4) ハイズオン省訪問団を本県に招聘（令和4年7月14日～17日）

ベトナムフェア開催のタイミングに合わせて、連携協定に基づく相互交流として、ハイズオン省訪問団を招聘し、友好親善を図った。

(5) 鹿児島県訪問団をハイズオン省へ派遣（令和5年7月10日～14日）

ハイズオン省との連携協定の内容に基づき意見交換を行い、特にベトナム人材の育成・確保に関する相互の取組について協議を実施

イ 人材育成・確保

県内監理団体とハイズオン省送り出し機関とのマッチング（令和6年3月8日）
ハイズオン省人材の本県への送り出しを促進するため、マッチングを実施

ウ 科学技術協力

ハイズオン省へ農業専門家（農政部技術職員）を派遣（令和5年2月14～16日）
特産のニンジンの栽培技術、青果物の鮮度保持技術について、ハイズオン省職員へ講義及び
情報提供を実施

エ 経済・観光協力

- (ア) ベトナム・鹿児島経済交流セミナー2022（令和4年7月15日）
駐日ベトナム大使館等によるベトナムの最新事情や、双方の企業の事例等を提供
- (イ) 駐日ベトナム大使講演会（令和7年10月15日）
駐日ベトナム大使によるベトナムの最新事情などを講演

(8) 米国ジョージア州との交流

昭和41（1966）年11月28日にジョージア州庁にて姉妹関係盟約を締結。以後、親善使節団等の派遣、受入や青少年交流等が実施されるとともに、大学間やロータリークラブ間などで相互交流が行われている。



① ジョージア州の概要

面積	積	: 153,953km ² （当県の約17倍、日本の面積の約41%）
人口	口	: 10,712千人（2020年現在）
州都	都	: アトランタ
知事	事	: ブライアン・ケンプ（Brian Kemp, 共和党）
議会	会	: 上院議員56名, 下院議員180名
空港	港	: ハーツフィールド・ジャクソン・アトランタ国際空港
港	港	: サバナ港, ブランズウィック港
主要産業	業	: 製造業, 農業, 卸売・小売業, 情報産業, 金融・保険業, 不動産業
日本との時差	差	: 14時間（夏期13時間）
飛行時間	間	: 日本→アトランタへ直行便で約12時間
名所旧跡	跡	: ストーンマウンテン州立公園, ダロネガ黄金博物館, マーティン・ルーサー・キング牧師記念地区, ケネソーマウンテン国立古戦場公園 等
州木	木	: サザンライブオーク
州花	花	: チェロキーローズ
州歌	歌	: 我が心のジョージア

（出典：The New Georgia Encyclopedia（WEBサイト）, 在アトランタ日本総領事館ホームページ等）

② 姉妹関係盟約締結の経緯

- 昭和38(1963)年10月 南日本新聞社の鮫島編集局長の渡米に際し、寺園勝志県知事がカール・サンダース州知事へのメッセージを託す。
- 昭和40(1965)年10月25日 日米知事会議のため来日(来鹿)したカール・サンダース州知事、寺園知事及び鮫島編集局長との間で姉妹州県の盟約の意思確認がなされる。
- 昭和41(1966)年6月 ジョージア州から姉妹関係盟約の宣言書が届く。
- 昭和41(1966)年11月14日 鹿児島県側宣言書をカール・サンダース州知事宛に送付する。
- 昭和41(1966)年11月28日 ジョージア州アトランタ市で姉妹関係盟約に関する協定を締結。

③ 姉妹関係盟約締結の理由

ともに温暖な気候に恵まれ、農業を基盤にした産業の振興に力を注いでいる。観光の面においても、美しい豊かな自然を生かして発展しつつある。

また、歴史的に見ると、ジョージア州はアメリカを本質的に統一国家とした大内乱(南北戦争1861年~1865年)の中心となったところであり、鹿児島は明治維新(明治元(1868)年)の原動力及び西南戦争(明治10(1877)年)の中心地となったところである。

このように、両県州は気候・風土、産業、歴史等、多くの類似点を有していることから、相互の交流を深めることにより、産業、文化、教育等あらゆる分野でお互いの繁栄に役立つものと考え、姉妹関係盟約を締結した。

④ 協定書

日本国鹿児島県とアメリカ合衆国ジョージア州との姉妹関係盟約に関する協定

日本国鹿児島県とアメリカ合衆国ジョージア州とは永久の友情のきずなを結ぶため、ここに姉妹関係を盟約する。

鹿児島県民とジョージア州民は、今後、産業・文化・教育等あらゆる分野において緊密な交流を図ることにより、国際理解と国際協力の精神をつちかい、友情を深めていきたいと思う。

この盟約は、鹿児島県とジョージア州を結ぶゆるぎない友情の掛け橋となり、相互の繁栄と幸福に寄与するものと確信する。

以上の合意を確認するため、昭和41(1966)年11月28日アメリカ合衆国ジョージア州アトランタ市において、この協定書に署名する。

鹿児島県知事 寺園 勝志

ジョージア州知事 カール・E. サンダース

⑤ ジョージア州との交流（平成20年以降）

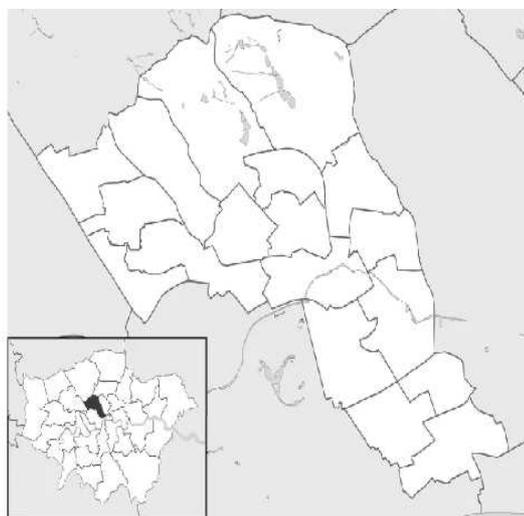
- 平成20(2008)年7月4日 ジョージア州商務省ケン・スチュワート長官一行4名が来鹿
- 平成30(2018)年6月4日 ジョージア工科大学外国語学科講師・学生計22名県内視察・県庁訪問
- 平成30(2018)年10月23日 ジョージア大学から農・環境科学部長一行が鹿児島大学長を表敬訪問
- 令和元(2019)年8月2日 三反園訓知事一行(9名)がジェフ・ダンカン州副知事を表敬訪問し、姉妹盟約に係る確認書に調印・取り交わし
- 令和6(2024)年11月16日 ジョージア州商務省日本事務所代表のジョセフ・ハントマン氏らが来鹿し、ジョージア州に関する紹介セミナーを実施

(9) 英国との交流

安政5（1865）年4月に薩摩藩の藩士達が「オースタライエン号」で現在のいちき串木野市内にある羽島から出航し、英国に留学。帰国後、外交、実業、教育等の分野を中心に我が国の近代化に大きな役割を果たすなど、歴史的に深い関係を有している。

このような背景から、薩摩藩英国留学生派遣から150周年に当たる平成27（2015）年、県と留学生ゆかりの4市（鹿児島市、阿久根市、いちき串木野市、伊佐市）は、公募した青少年を英国に派遣する「英国留学生派遣150周年記念 薩摩スチューデント派遣事業」を実施した。

また、我が国の近代化の始まりである明治元（1868）年（明治維新）から150周年を迎えた平成30（2018）年7月、知事が県議会議長等と英国を訪問し、薩摩藩英国留学生が学び、現在も同留学生に関する学籍簿が保管され、記念の石碑が設置されているユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）があるロンドン・カムデン区及び日本近代化に大きく貢献した集成館事業のために、五代友厚らが木綿紡績機械購入と紡績技師派遣の契約を行った地であるマンチェスター市との間で、友好協定を締結した。



左：ロンドン市拡大地図（黒色部はカムデン区）右：カムデン区拡大地図

① 英国の概要

面積：24.3万km²（日本の3分の2）

人口：6,827万人（2023年）

日英関係：慶長5（1600）年に英国人航海士ウィリアム・アダムス（三浦按針）が、豊後（現在の大分県）にオランダ船で漂着して以来、約400年以上にわたる交流の歴史を有し、第二次世界大戦前後の一時期を除き、両国は良好な二国間関係を維持している。

安政5（1858）年の日英修好通商条約締結により外交関係を開設し、平成30（2018）年には、外交関係開設160周年を迎えた。

主要産業：自動車、航空機、電気機器、エレクトロニクス、化学、石油、ガス、金融

（出典：外務省ホームページ「国・地域」、JETROホームページ「英国概況」）

② マンチェスター市の概要

面積：115.7km²

人口：約589,000人（2024年）

特徴：ロンドンから電車で約2時間、イングランドの北西部に位置する英国有数の大都市圏「グレーター・マンチェスター」を構成する10の自治体の一つで、産業革命の際に中心的な役割を果たした都市として世界中にその名を知られる。サッカープレミアリーグの「マンチェスターユナイテッド」と「マンチェスターシティ」といったサッカー強豪クラブの本拠地、音楽の文化が充実した街としても有名。

（出典：（一財）自治体国際化協会ロンドン事務所ホームページ、マンチェスター市議会ホームページ）

③ ロンドン・カムデン区の概要

面積：21.8km²

人口：279,500人（2020年）

特徴：グレーター・ロンドン内の33の市区（基礎自治体）の中の一つ。ファッションの発信地「カムデンタウン」、大英博物館、ロンドン動物園、グーグル英国本社を擁する。英国北部への長距離列車の起点となるユーストン駅、ユーロスターの始発駅となるセント・パンクラス駅を擁する。

（出典：（一財）自治体国際化協会ロンドン事務所ホームページ）

④ 英国との交流

ア 経済交流

「南の宝箱鹿児島輸出商談会」への英国バイヤー1社の招へい（令和元年度～）

※ 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により中止。令和3、4年度は、オンラインで実施。令和5年度から対面で再開。

イ 観光交流

(ア) 英語圏向けFacebook「Discover Kagoshima」による観光情報の発信（平成30年度～）

(イ) WEBメディアを活用した観光プロモーション活動（令和2年度）

英旅行雑誌のWanderlustのWeb版に本県の観光スポットの情報記事を掲載

(ウ) 焼酎のオンラインPRイベント（令和2年度）

日本のPRコンサルティング会社と連携し、英国を含む欧米豪の人々に鹿児島の焼酎の魅力を紹介するイベントを実施

(エ) 旅行会社向けのオンラインPRイベント（令和2～4年度）

日本の旅行会社を通じて、英国の旅行会社向けにオンラインでPRイベントを実施

(オ) 英国開催の日本文化イベント「HYPER JAPAN ONLINE 2021」への参加（令和3年度）

CLAIRロンドン事務所とオンラインで県内の観光地をPR

(カ) 英国内のイベントへの参加（令和3年度）

ロンドン開催のWorld Travel Marketにて、日本政府観光局（JNTO）ブース出展

(キ) 旅行会社招請ツアー（令和5年度）

JNTO及び九州観光機構と連携し、英国の旅行会社の本県の観光地をPR

(ク) メディア取材への協力（令和6年度）

JNTO及び九州観光機構が招請したナショナルジオグラフィックUK版による本県取材へ協力

- (ケ) 旅行会社招請への協力（令和6年度）
J N T Oが招請した英国旅行会社（2社）による本県視察へ協力
- (ク) 現地セールス（令和6年度）
英国市場でのプロモーション等に係る市場調査及び現地旅行会社等へのセールスを実施

ウ 青少年・教育・スポーツ交流

- (ア) 薩摩スチューデント派遣事業（平成30年度～）
実施主体：明治維新150周年プロジェクト実行委員会（平成30年度）
鹿児島県（令和元年度～）
内 容：UCLサマープログラム参加，留学生足跡訪問，表敬訪問，英国青少年との交流，ホームステイ，等
※ 令和2年度は，新型コロナウイルスの影響により中止。令和3年度及び4年度は，オンラインで実施。
- (イ) 英国青少年の受入（令和元年度）
実施主体：鹿児島県
内 容：県内視察（歴史体験，文化体験），学校訪問（学校体験），ホームステイ（生活体験）等
- (ウ) 薩摩藩英国留学生派遣160周年記念講演（令和7年度）
実施主体：鹿児島県
内 容：薩摩藩の英国留学生派遣から，160周年を迎えることを記念し，鹿児島と英国の交流促進，英国内での本県の認知度向上を図るため，講演会を開催。
- (エ) 学びにUK（平成27年度～）
実施主体：県立甲南高校
内 容：ホームステイ，現地の高校生及び大学院生との研究の場の体験 等
※ 令和2年度及び3年度は，新型コロナウイルスの影響により派遣中止

エ 芸術文化交流

- (ア) カムデン区「鹿児島展」（令和元年度）
実施主体：ロンドン・カムデン区
内 容：鹿児島県の地理的位置・概要，カムデン区と鹿児島との歴史的つながり 等

オ J E Tプログラム参加者の英国からの受入（平成13年度～）

カ 行政間交流

- (ア) マンチェスター市長鹿児島訪問（平成31（2019）年4月24日～28日）
実施主体：鹿児島県
内 容：県内視察，薩摩スチューデントとの意見交換会 等
- (イ) ロンドン・カムデン区長鹿児島訪問（令和元（2019）年10月22日～27日）
実施主体：鹿児島県
内 容：県内視察，薩摩スチューデントとの意見交換会 等